

新時代を開く、地域DXセンターcore塩尻

DXによって産官学が連携して地域課題を解決する都市機能を創出



地域DXセンター内の様子

**市議会内覧会開催！
DX先進都市に期待！**
地域DXセンターcore塩尻のオープンに伴い、6月1日に議会の内覧会が行われました。ここでは、利用契約をした会員企業が利用できる「専用オフィス」や、共有空間の「ワーキングスペース」、地域の住民が利用できる「交流スペース」が設けられています。最先端技術や開発中のサービスは子どもから高齢者の方まで体験できる内容です。中でも「eスポーツ」は、近年さらに関心が高まっていることから、身近に体験できる地域DXセンターは夢のような空間です。



eスポーツゾーン

このスペースは作業効率を高める工夫がされています。照明は明るさや色合いが細かく調整可能で、机や椅子は使用場面に合わせた大きさや形が配置されていました。新型コロナウイルスが5類相当となり、日常生活が戻りつつあります。対面での活動も出来ることが増えてきました。様々なアイデアを持った方が知恵の交流の場として活用し、この場所から情報を発信していただきたいと思っています。そして、ここから生まれたものを新しい塩尻のブランドとして広げ、住民サービスの充実を図ってほしいと思います。

塩尻市議会にDX(デジタル・トランスフォーメーション)導入

塩尻市議会では令和4年度からタブレットを導入し、操作研修を重ねる中で、議会活動での本格的な活用を進めています。

DX導入後の議会活動の現在とこれから
タブレット機能の「電子本棚」とはインターネット

地方議会におけるDXの必要性
コロナ禍において、社会全体で急速なデジタル化が進む中、議会内においてもデジタル化やペーパーレス化が求められています。DX導入により議会機能の維持・効率化に加え、市民の参画を図るなど、開かれた議会の実現が期待されています。

DX導入前の塩尻市議会の課題
主な課題は、会議資料が紙ベースであるため、印刷や発送に時間がかかり、情報共有に時間がかかる点です。また、危機管理対策では、災害時の状況把握ができず、議会として即時に会議を開催出来ない点も挙げられました。



6月15日タブレット研修の様子

ット上にアップロードされたデータが本棚のように分類、整備され、情報共有が行えるソフトウェアです。これにより、議会の開催通知や予定の確認がすぐに行えます。また、会議資料の電子化により検索機能やメモの書き込みが可能になるなど、今後の議会活動の幅が広がると思われます。

6月15日開催の議員全員協議会では、「デジタル予算書・決算書」の利用に向け、タブレットを使い操作研修を行いました。今後も議会と行政のDX強化、連携を図っていくとともに、本格的な活用に向けて研究を続けてまいります。